



小さな窓

平成 31 年 2 月 1 日 (金)
三鷹の森学園
三鷹市立高山小学校
校長 柳瀬 泰

ホームページにて学校の様子や子供の活動を発信しています。毎月 8000 近いアクセスをありがとうございます。

社会に開かれたカリキュラムとカリキュラム・マネジメント

校長 柳瀬 泰

これからの学校教育のあり方について考えてみたいと思います。少し長くなりますがお付き合い下さい。

平成 29 年 3 月に告示された学習指導要領の完全実施は 2020 年となります。外国語や特別の教科道徳など新たな教科が加わりました。「学習指導要領」とは、国が定めている学校の教育課程の基準を大綱的に示したものです。学習指導要領は社会の変化に伴いおよそ 10 年に一度のペースで改訂され、これをもとに各学校の教育課程が年度ごとに編成されます。「教育課程」とは、教育の目的や教育内容・方法を体系的に整理したものであり、各学校の教育活動の骨格のようなものです。一般には「カリキュラム」と言われています。

では、この「カリキュラム」の内容を 2 つの側面から見てみます。

1 つめは「教科等を支柱としたカリキュラム」です。小学校では、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び外国語（高学年）の各教科、特別の教科である道徳、そして、外国語活動（中学年）、総合的な学習の時間、そして特別活動で構成されています。学校ではこれら教科等の特性を踏まえたアクティブ・ラーニングを通じて、知識・技能を習得し、思考力、判断力、表現力を育成するとともに、学びに向かう力や人間性等を涵養することを目指しています。

2 つめは「社会に開かれたカリキュラム」です。こちらは社会の状況を視野に入れ、学校教育を通じてよりよい社会を創ることを目指したカリキュラムと言えます。ここでは、先にあげた各教科で学んだ固有の知識を相互の関連で捉えながら問題解決などに活用・発揮させ、資質・能力の育成を目指す教育課程です。こうしたカリキュラムを創るためには、まず「目指す資質・能力」を捉え直す必要があります。これにつきましてはご案内の通り「三鷹の森学園の教育目標（改訂版）」でお示ししてきました。この教育目標を家庭や地域と共有し、充実した実践を行うために地域の人的・物的な連携体制の整備を一層進めていくことが大切です。こうした多面的・多角的な教育活動を、組織的・計画的に実践する方策を「カリキュラム・マネジメント」と呼んでいます。

「学校は勉強するところだ。大人がそう教えてしまうから、子どもは学校さえ卒業してしまえば勉強はしなくてよいと思ってしまう。」歌手、さだ・まさしさんの恩師の言葉から引きました。社会に出てからも「学校」で学んだことが生きて働くように、学びの質を高めることに努めてまいります。

2月の行事予定

4日(月) 全校朝会
6日(水) たてわり班活動 午前授業
8日(金) 新一年生保護者会(14:00開始)
12日(火) たてわり班活動
13日(水) 音楽朝会 避難訓練
15日(金) わか竹学級体験学習

18日(月) 全校朝会
19日(火) 読み聞かせ(1~3年)
20日(水) 音楽朝会 クラブ活動
25日(月) 全校朝会
27日(水) たてわりお別れ会
28日(木) 6年生を送る会



特別の教科 道徳について

「特別の教科」による変化

道徳部 浅田 航平

これまで「教科外の活動」とされてきた道徳が、「特別の教科」になってもうすぐ1年が経とうとしています。授業時間数は1年生から6年生まで週1時間であることは変わりありませんが、大きな変化が2つあります。

1つ目は文部科学省の検定が必須の教科書が用いられるようになったこと。2つ目に評価が行われるようになったこと。

双方とも大きな変化であることは間違いありません。しかし、道徳の時間の在り方は昔も今も変わりません。それは、「自分の心にある考え」を見つめて、語り合っ、よりよい生き方を見つけていく時間だということです。様々な変化の中でも、道徳の時間の在り方を見失わず、教師が子供たちと一緒によりよい生き方を探す先導者になりたいと思っています。



2月のめあて

- 生活 健康に気をつけて生活をおくろう
- 安全 安全な登下校について考えよう
- 保健 みんなで気持ちよく学校生活をすごそう

学園サポーターとともに学ぶ

安心してミシンにトライ！

第5学年担任 遠藤 みゆき

5年生の3学期の家庭科では、「ミシンにトライ！手作り楽しい生活」という学習をします。ミシンを触ったことがないのはもちろんのこと、見たこともないという子も多く、経験値に差が見られます。その中で、安全に学習を進めるためには、学園サポーターの存在はとても大きなものとなっています。

実際に各学級1回サポーターの方々にサポートしていただき、ミシンの上糸・下糸のかけ方や糸を使わない空縫いに子供たちは挑戦しました。このような実技では、一人ひとりが体験することで、着実に学ぶことができるので、あと何回かサポートしていただく予定です。

教員一人ではなく、多くの目や細やかな声掛けが、子供たちにとっては、自信をもって学習することにつながります。これからも学園サポーターの方々のお力を借りながら、学びを深めていけるようにしたいと思います。

小中一貫・三位一体で取り組む 主体的・対話的で深い学び

思考力を鍛える体育の学習

第4学年担任 蓑田 直哉

体育の学習では、体力を高めるとともに、思考力の向上を目指しています。ただ単に体を動かすだけでなく、その動きのポイントは何か、どのように次の学習につながっていくのかということを考えながら取り組むことで、より充実した学びになります。

例えば、跳び箱運動の学習では技に取り組む前に感覚を養うための運動を行います。その中の1つにかえる跳びがありますが、腕で体を支える動きや手を遠くに着く動きが、学習のメインである開脚跳びの習得へとつながっていきます。このように、「運動のつながり」に目を向けることが体育の学習における思考力の向上につながると考えています。

4年生では单元ごとの学習カードも作成しています。自分だけの、または、チームごとの学習カードを活用することで、一つ一つの学習に対して、より主体的に参加する姿が見られています。さらに、技のポイントを確認し合ったり、チームで作戦を決めたりする場面では、自分の考えを伝え合い、対話的に思考力を高めています。



避難訓練・安全指導

命を守る

生活保健部 小林 史典

高山小学校では、毎月、さまざまな場面を想定して避難訓練を行っています。訓練の目的は、「命」を守るためです。この「命」は、自分の命はもちろん、全校児童の「命」を指します。

高山小学校は児童数が850人を超えており、新校舎もあります。そのような中で、「明日来るかもしれない大震災」が起こった時に、迅速かつ安全に全校児童が避難できるようにしなければなりません。

まず、迅速に避難できるようになるために、避難指示から全児童の安全が確認されるための時間を毎回伝え、避難の仕方を振り返っています。

そして、安全に避難できるよう、「お・か・し・も」を守り、4分以内の避難を徹底しています。

こうした、迅速かつ安全に避難することを繰り返していき、全校児童の「命」を守るための避難訓練を行っていきます。